



地区社協 & トモニー

地区社協と共に

“地区社協&トモニー”は、地区社協へ向けて区社協が発信する、不定期のトピックス！
トモニーの名前の由来のように、『共に』歩み、『共に』福祉を進めて行きたいと願って。

編集：南区社協 Tel.260-2510

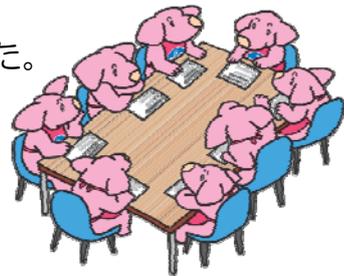
19 年度が本格稼働！

南区内 16 の地区社協の総会が 6 月末で全て終了しました！

19 年度の事業計画が承認され、新しい年度が本格稼働しはじめました。

総会には、区社協職員も参加させていただき、地区社協の熱さを生（ライブ）で感じる事が出来ました。

私たち区社協職員は、「まず地域の方に顔を覚えていただく」ことを第一と考えています。そして、「共にカラダを動かし」→「共に感じ」→「共に考える」ことを目指しています。



事業を行う際、事前の検討、役員会などなど、地区担当の職員へ是非、声を掛けてください。「忙しそうだから…」と言われてしまうことが、一番さびしいことなのです。



区社協 地区担当を よろしくお願ひします！



お三の宮	中島	南永田山王台	加藤
太田	小木曾	北永田	加藤
太田東部	小木曾	永田みなみ台	加藤
寿東部	中島	六ッ川	草尾
中村	草尾	六ッ川大池	草尾
蒔田	井出村	本大岡	草尾
堀ノ内・睦町	井出村	大岡	中島
井土ヶ谷	草尾	別所	中島

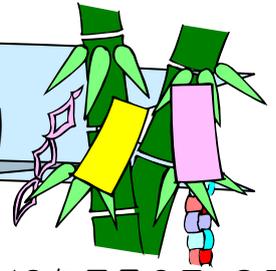
テーマは “なかむら ふるさとづくり” 中村地区がモデル地区社協に！

昨年の南永田山王台地区社協に続き、中村地区社協が 19 年度のモデル地区となりました。モデル地区へは、「活動への更なる取組み」「組織体制の強化」などを主眼に、区社協の職員が重点的に支援をしていきます。

中村地区は在日外国人が多く、地域住民としての交流、共生が課題のひとつ。19 年度は外国人支援を行なっている NPO と協働しながら、「なかむら ふるさとづくり」をテーマに、地域と在日外国人が交流をしながら、一緒になってふるさと（地域）づくりをしていきます！



地区社協アルバム・中村地区 外国人も参加する～ふるさとづくり



平成 19 年 7 月 6 日～8 日
中村地域ケアプラザにて

フィリピンのお菓子作り



作ったお菓子はみんなで試食♪



短冊に願いを

- ☆内容☆
- *子どもの遊び
～なかむらの昔と今～（展示）
 - *外国の文化交流会
～フィリピンのお菓子づくり
 - *七夕まつり
笹飾り・駄菓子屋さん・ピアノコンサート
 - *お話し会
フィリピンの子どもと生活・昔のなかむら



ふくしワンポイント ♥ 「ちょっと気になる あの人の行動」



人と関わるなかで相手が見せるこんな行動、心当たりはありませんか？
なんでそんなことをするのでしょう？ どのように接していけば良いのでしょうか？

▶ 「あれして、これして」と自分でできることまで言わないで！

周囲をコントロールしようとする行動は、自分の影響力（パワー）を実際に確かめている場合があります。本人にとっては要求が達成されることより、周囲が自分の指示で動いてくれたかどうかの方が意味をもちます。

▶ 「私の方が優れてる」と過度にアピール

相手を非難する、強い態度を見せる、攻撃的になるなどといった、自分のポジションを周囲の人より上位におこうとする行動。本人にとっては内容の妥当性よりも、相手よりも優位または上位に「位置づけられたと感じとれたか」に意味をもちます。

▶ 「あそこが痛い、ここが痛い」ちょっとおおげさ過ぎない？！

身体の症状を強く訴えたり、大声をあげたり、アピール行動で周囲の気を引こうとする行動。本人にとっては、その行動がどう評価されるかではなく、自分がその人の「視野」に入っているかどうか大きな意味をもちます。

▶ 「昔の自分は何でもやった」「あの頃の自分は・・・」また自慢話？

過去の自分の活躍や、苦労話をよく話題にする行動。今の自分自身が持てなかつたり、自尊心が損なわれている場合に、現在の代替として過去の自分を持ち出すことで、自分の存在確認をしようとします。

➡ 「あの人は困ったひと」と決めつけずに、本人がこうした行動をとらざるを得ない理由を考えて見ませんか？

具合が悪いとき、身体機能が低下したり、何か不安を抱えている場合に「存在確認」のための行動をとる場合があります。社会の中での自分の存在意味や価値を見失い、「揺れ」や「不安定さ」に揺さぶられているのかもしれません。

そうした相手の思いに寄り添いながら、“本人のプライドを尊重”し、“孤独感を少しでも取り去る”“本人の思いに共感する”など、今の本人の「存在」を認めること。そして、「こちらが存在を認めていること」を本人が感じる事が出来るような関係づくりを意識してみませんか？

【参考：「支援困難事例へのアプローチ」 大阪市立大学大学院生活科学研修科 助教授 岩間伸之】